

The Victor Hugo School E・a・B International～55国籍の子ども達が学ぶ学校

神奈川県 森川敦子

1 学校概要

- (1) パリ中心部に6ヶ所のセクションを持ち、幼稚園児から高校生まで、約2300人の生徒が在籍している。
- (2) フランス語を授業言語とするフランスセクションと、英語を授業言語とする英米セクションに分かれていて、70名の日本人生徒が在籍している。

2 訪問記

マルセイユよりフランスへ到着し、バスにて移動する。現地通訳者とバス運転士が同校を探すが、なかなか学校らしき建物がない。通訳者の説明によると、パリの学校の建物は、アパートメントと同じ外観で、日本の学校のような広い校庭があるわけではなく、見つけづらいとのことであった。

学校についてみると、なるほど外観からは学校の建物とは思えないものだった。中庭のようになった駐車場を通り過ぎ、教室の並ぶ建物へ入った。

学校長と日本語コーディネータから、資料が配られ、学校の概要を聴く。授業中の教室には入れないが、空き教室には入って写真撮影が可能と言うことだった。

廊下をはさんで両側に並ぶ教室は、日本の一般的な教室の半分くらいの大きさであった。また、建物の構造上、教室が細長い。

授業の様子を見ると、40人学級が基本である日本に比べ、生徒の人数が少ない。十数名での授業だった。

小学生の教室は、カラフルな掲示物が貼られとても楽しい雰囲気だった。また、机の上に、百玉そろばんが置かれていた。

理科室の机には、一人一つずつ電源コンセントがある。これは、実験結果を解析する際にコンピュータを使用するためについている





ということだった。

図書室も、普通教室と同じくらいの大きさで、置いてある本の数も少ない。以前、フランスの日本人学校に勤務していた大森修先生から、フランスは本が高価なので、公共図書館の本を利用するのが一般的であることをきいた。学校や個人で本を所有することは少な

いそうである。

3 日本人の子ども達への質問

学校の昼食休憩の合間に、本校で学ぶ日本人の子ども達との交流の時間があつた。

子ども達へ次のような質問をした。

Q 1 一番楽しことは何か。

A 1 体育の時間（校庭はないため、バスで体育施設まで行く。）、休み時間。

Q 2 大人になったら何をしたいか。

A 2 ①海外で過ごしたい。②エンジニア ③自分の能力を使った仕事につきたい。

④まだわからない。 ⑤通訳

Q 3 本校に通うことを自分で決めたのか、両親が決めたのか。

A 3 ①父親の仕事に伴う転勤によって、本校に決めた。

②両親のアドバイスによって、本校に決めた。

Q 4 日本の学校との違いを一つ教えて欲しい。

A 4 ①半分人生に役立つ勉強ができる。適応力がつく。

②発言することで点数がもらえる。静かにしていると参加していないと見なされる。個人の意見が尊重される。

③常識が違う。

④国語の答えがいっぱいある。

⑤1学級で多くても25名くらい。

質問に答える子ども達は、自信とやる気に溢れた様子だった。それぞれが、自分の考えをはきはきと答えた。

日本語コーディネータの先生が、「国柄の違いで、日本の常識がフランスでは非常識ということもあるので、子ども達が上手く違いに慣れることに一番気を遣う」と話していた。55国籍もの子ども達を教育するシステムに驚きを感じた。